

タイトル	影絵「ヘンゼルとグレーテル」
作成者(著者)	戸田宏純
作成者(ヨミ)	トダ, ヒロスミ
出版社・団体	下関短期大学保育学科
出版社・団体(ヨミ)	シモノセキタンキダイガクホイクガッカ
Niii資料タイプ(区分)	研究報告書(教育実践記録等)
ISSN	—
掲載誌名	第30回 下関短期大学保育学科 創作発表会研究発表要旨集
巻・号	—
開始ページ	8
終了ページ	9
発行日	2017/12/9

下関短期大学
〒750-8508 山口県下関市桜山町1-1

Copyright©2017 Shimonoseki Junior College All rights Reserved.

影絵「ヘンゼルとグレーテル」

下関短期大学 保育学科 (担当教員：戸田 宏純)

影絵ゼミナール 2年 井藤 彩希、伊藤 千夏、江島 夏穂、櫻井 鈴音
1年 井石 晴菜、尾平野 穂花、仲重 光須寿、新田 結奈、
平岡 愛佳、水谷 智広、山根 響、米倉 彩乃

1 研究の目的

本ゼミナールは、保育内容表現「言語」、「音楽」、「造形」についての基礎研究のもとに、保育者としての資質・能力を磨いていくことをめざしている。

最終目標はゼミナール活動の総仕上げとして、日々の基礎研究の成果を披露する場である創作発表会で、影絵の作品を上演することである。学生たちは主体性、協調性を発揮し、影絵の形体づくりや投影の工夫を通して、子どもの想像力を豊かに育むための表現力を身に付けることを目標に進めている。特に本年度は担当教員にとっても影絵は初めてのことであったので、昨年度経験した2名と今年度新たに加わった2名の2年生がリーダーシップを発揮しながら活動している。

影絵はスクリーンに映し出される人物や動物などが、ストーリーの進行に合わせて音楽とともに動き、子どもたちを物語の世界へと導いてくれる。影絵の制作・上演の経験は保育所や幼稚園等での発表会の企画・運営の基礎的な力を培うことにも繋がると考え、私たちは子どもたちの喜ぶ姿を思い描きながらゼミナール活動をしている。

2 研究の方法

(1) 影絵の題材設定

物語を独自に創作する方法もあるが、時間的な制約や諸事情を勘案すると、子どもたちや保護者の認知度が高い童話を選定して、形体づくりと演出に力を入れることが望ましいと判断した。

そこで、子どもが主人公でストーリーがわかりやすく、見学者である幼い子どもたちに恐怖心が残らないような登場人物等の条件を

考慮に入れ、グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」を選んだ(写真1)。この物語の原作には残酷と解釈できる場面が含まれている。そこで、鑑賞する子ども達のことを考え、ストーリーを上演用に修正することとした。



写真1 影絵「ヘンゼルとグレーテル」の一場面

(2) 影絵の形体づくり

上演時のイメージがわくように、影で投影される部分を黒く塗り、厚紙に貼り付けて、カッターナイフで抜き取っていく。切り抜いた部分の一部には、色セロハンを貼り付ける。出来上がった形体に、透明なプラスチック板の支柱を取り付けて演技しやすいようにする。

(3) 投影の工夫

スクリーンと光源の適切な距離を定めて、暗室で演技練習を行った(写真2)。人影が写らないよう、腰をかがめて影絵の形体を操作し、ストーリーに合わせて順序良く形態を登場させる練習は学生たちにとって苦労の連続でありチームワークの重要性が問われた。

また、練習専用で使用できる暗幕を設置した教室がないので、通常の練習はC棟2階教

室で行っている。また、発表会の会場と教室では状況が違う。従って、会場のステージの高さ、スクリーンと光源の位置関係が確認できる前日リハーサルの1日が貴重な時間となっている。

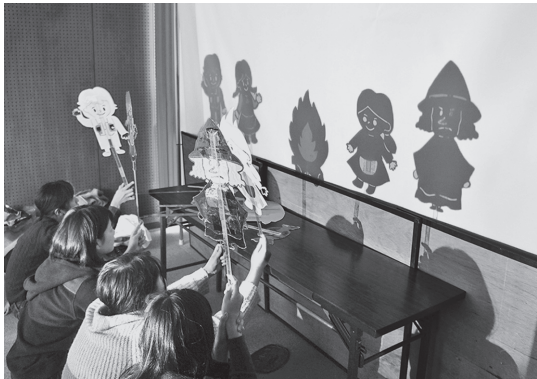


写真2 教室での通常練習風景

(4) 音響と演技

ナレーションや影絵の台詞と音響とを合わせて、効果的な表現方法を工夫する(写真3)。その際、BGMの選曲も重要となる。台詞の抑揚の付け方、声の大きさ、音響とのタイミングなど、練習に時間をかけ、子どもたちにとって魅力のある演技になっているかを常に意識して取り組んでいる。

3 考察

(1) 影絵の形体づくり

下絵を描くことや、カッターナイフを使って形体を切り抜く作業など、技術面で個人差があり、それぞれに得意分野があることがわかる。保育現場では、様々な創作活動が求められるので、学生にとっては、自分の特技と課題を自覚するよい機会となった。

(2) 台本づくり

グリム童話の物語をベースに、影絵用にアレンジした。上演時間に制限があり物語をかなり短くしなければならないことや、子どもたちに分かりやすいお話になるように、学生たちは形体を動かし、意見交換しながら修正を繰り返し、台本を作り上げていった。

(3) 演技練習

台詞やナレーションに合わせて影絵を動かす、物語を進めていく過程で、子どもたちを

ひきつけるためには、どのように工夫したら効果的か、声の抑揚や影絵の動きなどを繰り返し練習した。豊かな表現力を身に付けることがいかに難しいか、そしてそれを実現するためにいろいろなアイディアを出し合い、作り上げていく楽しさを実感したようである。仲間と協力して作品を作り上げていく経験は、今後の保育活動に必ず生かされるものと期待している。

4 研究の結果と考察 一 所感一

ゼミナール活動は、年間計画に基づいて行った。学生たちは影絵の形体づくりや演技の工夫について、自発的に意見交換をしながら、創作発表会に向けて活動を進めていった。活動の過程を通して、保育者としての自覚が芽生え、自己の課題が見えてきたようである。

今後も保育活動に携わることを意識し、子どもたちの笑顔や成長をサポートする気持ちを大切に本学での学びに励んでほしい。

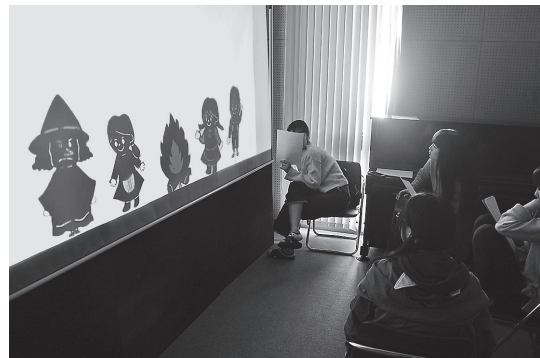


写真3 ナレーション・台詞・音響確認

【参考文献・URL】

- 1) ヤーコブ・グリム, ウィルヘルム・グリム著, 高橋健二訳「グリム童話集」国土社, 1977年
- 2) 世界と日本の童話・昔話集 福娘童話集/きょうの世界昔話/10月13日の世界の昔話/グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」
(<http://hukumusume.com/douwa/pc/world/10/13.htm>)

【使用CD】

- 1) 城野賢一・清子作品集「決定版! 音楽劇ベスト10カラオケ集②」ビクターエンターテインメント、2013年
- 2) 城野賢一・清子 作品集「決定版! 音楽劇ベスト10⑦ ヘンゼルとグレーテル」ビクターエンターテインメント、2013年